

## 第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

団体名	特定非営利活動法人 NEKKO
活動タイトル	ピナトゥボ大噴火を生き抜いた先住民アエタがメガソーラーと共存してゆく植林支援
活動地域	フィリピン・サンバレス州



4月13日、苗木の購入と運搬（ココナツの苗木）

### 【活動の目的・目標】

これまでアエタ族は差別され収奪される被害の歴史を生きてきた。そのアエタ族が国から先祖伝来の土地として保護されている土地に、東南アジア最大規模のメガソーラーがやって来た。逃げるのではなく、争うのではなく、共存共生する方法を模索し始めている。メガソーラーがこれ以上アエタ族の居住地域へと拡張侵食させないためには、確固たる行動で示す必要がある。本植林事業では最先端の技術でのメガソーラーと、最も原始的な民族が、共存し両方がWin-Winの関係になるための緩衝地として人工の果樹・用材樹種の大木帯を作るものである。



4月27日、有刺鉄線柵の施工、後方にメガソーラーが見える。

### 【今回の活動で苦勞した/工夫したこと】

植林現場を有刺鉄線で囲い、大規模な植樹と雑草の刈り取り作業を実施した直後、台風が直撃し、職員が現場へ入ることが出来ない日が3日間ほど続いた。その期間に野良牛の大群が現場の柵を押し倒して侵入し、ココナツの苗木をほぼ全て食い荒らし、掘り返していた。彼らは有刺鉄線を飛び越えたり、支柱を体で押し倒して侵入した。牛が有刺鉄線を飛び越えるなど、全くの予想外であった。支柱の追加等の緊急的な対策を講じているが、今も十分な成果がでていない。来年度の予算が認可された場合、有刺鉄線をより高い場所に追加設置する計画である。



5月22日、マホガニー苗木の植樹

### 【活動の内容・成果】

開催回数：40回以上

参加人数：のべ100人

達成率：50%

本事業の3年計画の1年目である。すでに現時点で植林現場約3ヘクタールを有刺鉄線柵で囲い、マホガニー苗木1000本分と、ココナツ苗木350本分を植樹している。残すところ150本分の苗木がまだ植樹に至っていないが、来月中には完了する見込みである。本来であれば事業の達成率は80%を超えているが、不測の事態で野良牛の大群に襲撃された被害が出ている。250本のココナツ苗木を植樹した直後に、約200本の苗木が葉を食われ、種子ごと掘り返され、数日を放置された。まだ芯部の芽が残っているので、今後の気候次第な部分も大きい。生存できるのかは未定である。そのため達成率を50%とした。現状だと、来月中に第32回イオン環境財団の助成分の活動はほぼ完了する。その後は自己資金による除草作業や山焼き作業が残り、来期の事業継続へと繋がる予定である。

### 【団体概要】

当団体はフィリピンで活動して30年、植林・医療支援・教育を専門としています。植林はピナトゥボ火山被災地の復旧、イフガオ州の世界遺産棚田の保全に関して多大な成果を上げています。医療支援は「フィリピン、貧しい母子のための診療所」の運営を23年に渡り継続しています。

## 第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

こちらに、1ページ目の以外の活動写真を添付し、右側に説明をご記入下さい。



5月22日、マホガニー苗木の植樹。1000本の苗木を植える計画である。この日が初日である。



5月29日、マホガニー苗木の植樹。マホガニーの苗木を植える。すでに連続1週間の作業が続いている。この翌日が植樹の最終日となった。



9月2日、野良牛の大群が有刺鉄線柵を押し倒して侵入。ココナツ苗木がほぼ全て掘り起こされ、葉を食われる被害が出た。これは携帯で急遽撮影した動画をスクリーンショットした写真。



9月7日、野良牛の大群に食い荒らされたココナツの苗木を植え直す。この苗木が生き残れるのかは、今後の気候と野良牛の再襲来を防げるのか、にかかっている。